令和４年度　生徒・保護者学校評価アンケートについて

１実施日　　令和５年１月
２回答者　　生徒 327 名（64．2%）　　保護者　11 名（２%）
３評価段階　４：十分できている　　３：おおむねできている
　　２：あまりできていない　　１：できていない
４総合評価　Ａ：達成できている　　（３．５＜Ａ≧４．０）
　　Ｂ：できている　　（３．０＜Ｂ≧３．４）
　　Ｃ：努力を要する　　（１．０＜Ｃ≧２．９）

区分	評価の観点	生徒			保護者		
		R3	R4	評価	R3	R4	評価
1	教師は、学習活動のねらいを具体的に説明している。	3.1	**3.3**	B	3.0	**3.6**	A
2	教師は、いじめの未然防止やいじめが起きた時に適切に対応している。	3.1	**3.1**	B	3.0	**3.6**	A
3	教師は、授業で不必要な時に、スマホを触っている生徒に対し適切に指導している。	3.0	**3.2**	B	2.7	**3.3**	B
4	教師は、生徒の理解度に合わせた授業をおこなっている。	3.2	**3.3**	B	3.1	**3.5**	A
5	困ったときに相談できるような体制が学校にある。	3.3	**3.1**	B	3.2	**3.5**	A
6	学校は、地域などの外部人材を積極的に講師に招き、様々な視点から学ぶ機会を提供している。	3.3	**3.2**	B	3.2	**3.5**	A
7	学校は、授業や行事などで、特別支援学校との共同学習の場を設けている。	3.2	**3.3**	B	3.4	**3.4**	B
8	学校は、特別支援学校との取組についてホームページなどを通じて発信している。	3.1	**3.1**	B	3.2	**4**	A
9	教師は、生徒が意欲的になるような授業の工夫や研究に努めている。	3.1	**3.3**	B	3.4	**3.5**	A
10	部活動顧問は、生徒の主体性、自主性を尊重した部運営を心掛けている。	3.0	**3.1**	B	3.1	**3.4**	B
11	教師は、生徒の話を丁寧に聞くとともに、生徒を否定したり、自説を押し付けたりしていない。	3.2	**3.3**	B	3.1	**3.5**	A
12	教師は、生徒が考え行動する機会を作り、働きかけている。	3.2	**3.3**	B	2.9	**3.6**	A
13	学校は、生徒会活動の取り組みを支援したり、生徒会役員以外の生徒を啓発している。	3.1	**3.1**	B	3.0	**3.6**	A
14	学校は、地域貢献やボランティア活動をする生徒の取り組みを支援したり、他の生徒を啓発したりしている。	3.1	**3.1**	B	3.0	**3.6**	A
15	学校は保護者と連携し教育活動にあたっている					**3.2**	B

令和４年度　学校評価について

県立阪神昆陽高等学校

■今年度について

　本校の教育目標に基づき、昨年度に引き続き、学校評価を、生徒・保護者にも実施したが、昨年同様保護者の回答率は低かった。
今年度は教員の昨年度と比較して自己評価が下がった。原因は今年度学校の状況は迷惑特別指導が多く、生徒が落ち着かない状況が続いていた。また、生徒指導の初動の遅れなどによる、教員の徒労感が原因ではないかと推測される。
学校の理念基づいた取組を知らない教員が多い。

■生徒・保護者アンケートについて

　生徒の授業アンケートは、すべての項目がＢでおおむね対応を肯定的に評価している。記述内容は、前向きな意見がしっかりと書けていることに、生徒の成長を感じた。記述意見の中に、教員の授業方法への意見が表裏一体で多くあり、教員の授業方法について改善の余地がある。
また、保護者アンケートは、ほとんどの項目がＡを示している。生徒と保護者の間に学校生活の話題があることが伺える。さらにＰＴＡ執行部方々の学校行事等の呼びかけにより、生徒と保護者の間の話題が増えていると考える。

■学校評議員より

・学校評価の項目は適切である。分析をしっかりと行い、改善につなげる必要がある。
・学校評価の数値は毎年対象が異なるので参考程度でよい。
・ノーマライゼーションなどの表現は、今は変化している。どのように言葉を使うか検討してほしい。
・生徒の前向きな評価は素晴らしいと思う。是非生徒の話を直接聞く機会を作ってほしい。

■来年度に向けて

・学校評価について教員が意見交換する場を設け、学校目標・課題の確認を行い、育てたい生徒像の共有し、評価項目の精選を行う。
・学校評議員と生徒が意見交換する機会を作る。授業参観は毎回実施しているが、新たに生徒と直接意見交換する機会を設ける。

県立阪神昆陽高等学校 令和4年度 行動・実践目標評価シート お名前【　　】No.

理念

阪神昆陽の両校がともに助け合って生きていくことを実践的に学ぶ機会を設定し、ふれあいを通じた豊かな人間性を育むとともに、社会におけるノーマライゼーションの理念を進展するための礎となる学校をめざす。

教育目標

A 生徒の興味・関心や、多様な学習ニーズに応じて、主体的に学ぶことができる多部制単位制高等学校として、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む。

B 人権尊重の理念に対する理解を深め、生命の尊厳を基盤に、自他に対する肯定的な態度と共生社会の実現に主体的に取り組む実践力を育成する。

C 阪神昆陽特別支援学校が同一敷地に設置されたメリットを最大限に生かして交流及び共同学習を推進し、ふれあいを通じた豊かな人間性を育むとともに、社会における ノーマライゼーションの理念を進展する礎となる学校をめざす。また、両校の実践を県内のみならず全国へ発信する。

D 学校評議員制度や高校生ふるさと貢献活動事業、特別支援学校交流・体験チャレンジ事業などを活用して、伊丹市池尻地区や尼崎市西昆陽地区など、学校周辺の地域と 連携した教育活動を推進し、地域に開かれた、地域に愛される学校をめざす。

E 「教育は人なり」という言葉があるように、両校の教職員は、教育の専門家としての使命感と高い倫理性を保持し、豊かな人間性の涵養に努める。また、専門性と実践的指導力の向上や、社会の変化に対応した教育観を培うことをめざして、研究と修養に努める。

評価点　：十分できている=**4**、おおむねできている=**3**、あまりできていない=**2**、できていない=**1**

総合評価：**A　達成できている（3.5＜A≧4.0）　B　できている（3.0 ＜B≧3.4）　C　不十分である（1.0＜C≧2.9）**

＊行動指標として複数の具体例を示しています。その一つ一つに当てはまるか否かではなく、指標を参考にして実践目標に対する自己評価を総合的にご判断ください。

	評価の観点		実践目標	No.		関係する教育目標	R3		R4		増減
Ⅰ 理念・経営方針・重点方針	円滑な学校運営	学校の理念、及び基本方針を理解している。	理念を踏まえて、学校経営の基本方針を、自身の学校教育活動に反映させる。	①	・自分の業務を、学校の理念・方針の中に位置づけることができている。 ・学校の理念・方針をふまえたうえで、学習活動のねらいを生徒に具体的に説明できる。	A、B C、D E	3.2	B	3	B	△0.2
		自分が所属している部・年次の経営目標を理解している。	部・年次の経営目標に沿って、自身の教育活動に反映させる。	②	・自分の業務を、部・年次の目標・方針の中に位置づけることができている。 ・部・年次の目標をふまえたうえで、学習活動のねらいを生徒に具体的に説明できる。	A、B C、D E	3.2	B	3	B	△0.2
	働きがいのある学校づくりと教員の資質向上	働きがいのある学校づくりを実践している。	校務・業務の適正化により、生徒と向き合う時間を確保するとともに働きがいのある学校づくりに努める。	③	・働きがいのある学校づくりのために、業務改善に取組、メリハリある勤務に務めている。 ・水・金曜日はおおむね定時に退勤している。	E	3.2	B	3.3	B	0.1
		人間性と教育観の涵養に努め、教員としての資質向上を図っている。	豊かな人間性の涵養、専門性と実践的指導力の向上、社会の変化に対応した教育観を培うことをめざし研究と修	④	・専門性を高める研究、ボランティア、読書、スポーツ、旅行など、人間性を豊かにし、資質向上につながる時間を作っている。	E	3.2	B	3	B	△0.2
	危機管理体制の整備	本校の危機管理体制、いじめ防止基本方針を理解している。	基本的な考え方・指導体制、組織的対応・重大事態の対応ができる。	⑤	・危機管理マニュアルが適切に保管され、自分の関係する部分はおおむね理解できている。 ・いじめの未然防止やいじめが認知された際に、基本方針に沿った対応ができる。 ・様々な研修を通じて学んだことが、生徒・保護者対応等の初期対応に生かせている。	B、D	3.1	B	3	B	△0.2
		日頃より関係機関との連携を密にし、様々な危機に対応できる体制を整えている。	コーディネーター・キャンパスカウンセラー・外部関係機関（警察・消防・病院・ＳＳＷ・福祉支援員　等）との連携ができる。	⑥	・特別な支援、あるいは指導を要するケースについて、関係職員との情報共有(報連相)を心掛けている。	A、C	3.5	A	3.3	B	△0.2

※裏面に続く

	評価の観点		実践目標	No.	行動指標	関係する教育目標	R3		R4		増減
Ⅱ 魅力ある学校・特色ある学校への取組	授業	授業規律の確保に努めている。	落ち着いた授業を行うため、ルールやマナーを生徒に周知徹底させる。	①	・授業で不必要な時に、スマホを触っている生徒に対し粘り強く指導を行う。	A、E	3.3	B	3.1	B	△0.2
		生徒の力を多面的に評価することに努めている	令和４年度からの全科目定期考査廃止に向け、評価方法を検討し構築する。	②	・評価観点・規準を検討し生徒に示すとともに、令和４年度から実施する評価に向けて準備している。	A、E	3.0	B	3.3	B	0.3
		授業力の向上に努めている。	大学・短大、専門学校、就職など、個々の進路実現のため生徒のニーズに合わせた授業を行う。	③	・生徒の理解度に合わせた授業を行っている。	A、C E	3.2	B	3.1	B	△0.1
	通級・レジリエンス	特別な支援を要する生徒に対する本校の取り組みを理解している。	通級による指導、自殺防止の取り組み等を理解し、実践する。	④	・高校における特別な支援の必要性を理解し、研修を活用している。 ・特別支援学校と連携し、困難さを感じている生徒に対する支援に取り組んでいる。	A、B C、D	2.8	C	2.9	C	0.1
	特別支援学校との連携	学校設定教科「共生社会と人間」を適切に実施している。	ノーマライゼーションの進展に寄与する人間観・社会観を醸成する。	⑤	・特別支援学校、地域の人材を積極的に講師に招き、様々な視点から学ぶ機会を設定している。 ・外部機関と連携して授業を進め、実社会で学ぶ機会を設定している。	A、B C、D	2.7	C	2.9	C	0.2
		交流及び共同学習を適切に実施している。	授業、行事等、学校教育活動の様々な場面で、両校の生徒がともに活動する機会を設定する。	⑥	・共同の学習活動に向け、両校の担当者が定期的な打ち合わせ、情報共有を行っている。	A、C D	2.9	C	2.9	C	0.0
		高校・特別支援学校両校の取り組みを発信している。	両校の実践を県内のみならず全国へ発信する。	⑦	・両校の実践についてHPで情報を更新し、保護者、地域へ情報提供している。 ・SPIRIT等の記録を作成し配布する。 ・各説明会等で、両校の取り組みの内容を紹介する。	A、C D	2.9	C	3	B	0.1
Ⅲ 自尊感情の醸成	自己効力感	生徒の多様な能力・適正・興味に即し、自ら学ぶ学習意欲を喚起している。	体系的なキャリア教育を進め生徒の進路意識を高めるとともに、必要に応じて補習、個別指導等を実施する。	①	・年次、進路指導部や部顧問とも生徒情報を共有し指導にあたっている。 ・生徒が意欲的になるような授業の工夫や研究に努めている。	A、C	3.3	B	3	B	△0.3
		部活動を充実させようと努力している。	部活動の意義を理解し、生徒の活動を支援する。	②	・「いきいき運動部活動(4訂版)」をふまえて活動をおこなっている。 ・生徒の主体性、自主性を尊重した部運営を心掛けている。	A、C	3.1	B	2.9	C	△0.2
	自己肯定感	カウンセリングマインドの視点を活かす指導で生徒や保護者対応を行っている。	他の教員と、本校の生徒指導について共通理解し、同一歩調で指導にあたる。	③	・生徒・保護者の話を丁寧に聞くように意識している。 ・生徒を否定したり、自説を押しつけたりしないように意識している。	A、C	3.6	A	3.3	B	△0.3
		生徒が自分の行動に責任を持つような取組を行っている。	生徒が自ら考え、行動を選択できるように働きかけている。	④	・生徒が考え行動する機会を作り、働きかけている。	A、B C	3.2	B	3	B	△0.2
	自己有用感	生徒の自己有用感を高める諸活動の内容を理解し、その取り組みを支援する。	生徒会活動を理解し、その活動を支援する。	⑤	生徒会活動について ・活動内容を理解している。 ・当該生徒の取り組みを支援したり、他の生徒を啓発したりしている。	A、D	3.0	B	2.9	C	△0.1
		生徒の自己有用感を高める諸活動の内容を理解し、その取り組みを支援する。	高校生ふるさと地域貢献活動、ボランティア活動等を理解し、その活動を支援する。	⑥	地域貢献活動、ボランティア活動等について ・活動内容を理解している。 ・当該生徒の取り組みを支援したり、他の生徒を啓発したりしている。	A、D	2.9	C	2.9	C	0.0